



【10月以降の活動予定他】

◎浴衣・着物着付け体験

日時：10月6日(日) 13:30~16:00

場所：文化研修センター 和室

◎外国人お遍路ガイド講座

第10回 10月7日(月) 10:00~11:30

第11回 10月19日(土) 13:00~14:00

* 藤井寺の見学と住職さんのお話

10月8日(火) 10:00~

◎観月茶会体験

日時：10月20日(日) 10:30~12:00

場所：鴨島公民館の予定

◎理事会

日時：10月26日(土) 15:00~文化研修センター

◎バスツアー 姫路城

日時：11月17日(日)

参加費：3,000円

◆外国人技能実習機構との面談に参加して

三原 敦子

9月6日、外国人技能実習機構・高松事務所の高橋誠氏が鴨島に来訪され、YIA メンバー（瀬尾、萩森、羽山、井口、萩森）と情報交換など交流を行いました。初めに萩森副会長がYIA や日本語教室の概要・活動内容を10分ほど紹介しました。その後、高橋氏が同機構の概要を説明されました。機構は、技能実習生への支援や保護、管理団体・実習実施者を指導監督することが主な業務で、法務省・厚生労働省との共管で成り立っていることや、実習生に関する法律・制度の改正内容についても説明されました。最大の問題は技能実習生の失踪の増加であり、その理由はパワハラ、日本語習得の難しさ等があげられるとのことでした。明らかに違法なこと、例えば妊娠すれば強制的に帰国させる等を行う実施者（受け入れ企業）もあるとのこと。9月3日付けの日経で「実習生の失踪過去最多」という記事を見ていましたが、失踪する実習生はその後さらに苦しい状況に追い詰められることが多いと聞き、失踪を未然に防ぐことが本当に大切なのだと痛感しました。そのため現行の



法律や、制度の改正が行われ、育成就労制度という「外国人に魅力のある制度」作りがされているとのこと

した。周辺国との人材獲得の競争もありますが「選ばれる国」にならないければ今後の日本経済は衰退していくことも分かりました。

最後に「今後日本に外国人が働きにきますか？」と聞いたところ、「実は増加しています。賃金の低さより日本は安心・安全な国だからでしょうか。それに中には日本を知りたい、というワーキングホリデー的に来る人も多くなっています」とのことでした。16日付けの新聞にはインドネシアの労相が「日本は規律正しく、高技術の国、今後5年間に25万人の人材を送りたい」と。私は日本語教室の意義は日本語を習得するだけでなく、目の前にいる実習生たちと悩みや喜びを共有し、雇用主とのつながりを強めることが大切なのではと思った一時間でした。

◆新ALTのアンドリューさんとの茶話会

井口 和代

その日(9/8)は日本語教室の日でした。私はパキスタンの女性を担当していました。3時半になり授業終了です。その時教室の戸が開いて、背の高い男性が入って来ました。パキスタンの女性が「あの人は誰ですか？日本人？顔が日本人と同じです」と言ったので、「そうです！その人は新しいALTの先生。韓国系アメリカ人の



アンドリュー・キム先生。アメリカ・ウィスコンシン州の出身です。」と答えました。

その日は、キム先生をお迎えしてのささやかな宴(ティーパーティー)を催す日だったのです。私たち日本人は7人。そして先生。お菓子とジュースで1時間ほど会話を楽しみました。

キム先生は大学の専攻が語学(英語)。文章、物語を書くのが大好きだそうです。また日本語も第二外国語として3年間勉強されたそうで、自己紹介は流暢な日本語でしてくれました。私たちはもちろん、英語でしました。皆さん、英語を話したくてうずうずしている人たちがばかりなので。(笑)

キム先生は、これから鴨島の小学校と中学校で英語を教えてくださいます。ここ鴨島で、先生にとっての素晴らしい出会いがありますように。また、たくさんの笑顔に囲まれますように。そう願いました。

◆初めての俳句・書道体験 萩森 健治

残暑厳しい9月15日(日)午後、文化研修センターで「俳句・書道ワークショップ」を開催し、日本語教室の受講生などが初めて俳句・書道を体験しました。

俳句講師は上窪青樹さんと則子さん夫妻、書道講師は吉野美苑さんでした。参加したのは、パキスタン、中国、ネパール、ベトナム、タイ出身の受講生9人、講師とYIA会員など10人、計19人でした。

最初に上窪先生が、俳句とは? テーマの選び方、秋の季語のいくつかの事例、俳句の作り方など易しく説明されました。早速、受講生らは講師や日本人参加者の指導を受けながら俳句作りに挑戦。最初は困った様子で四苦八苦していましたが、講師の的確なアドバイスを受けてから、楽しそうに俳句を作っていました。でき上ったら吉



野先生の書のお手本を見て半紙に墨で書く練習をして、竹から作られた和紙の色紙に清書。作品は前のボードに展示され、上窪先生がそれぞれの作品の講評をされました。外国人受講生にとって初めての体験でしたが、自分の気持ちを素直に表現した個性豊かな俳句が完成しました。また、書道の腕前もなかなかのものでした。なお、作品は10月に鴨島公民館に展示されるとのことです。

Azizさん(パキスタン)の一句

「リンリンと けいたいでんわ むしのこえ」

◆ブルガリアの先生が山川教室を視察 萩森 健治

ブルガリアのペリコ・タルノヴォ大学のKatya Marinova先生が9月22日の山川日本語教室を視察されました。Katya先生は大学時代に第二外国語として日本語を専攻し、それ以来日本語教育に携わるようになり、現在は同大学で日本語文化センター長をされています。徳島大学のチャン先生と日本語教育の共同研究を行う

ために来日し、研究の参考としてチャン先生と一緒に山川教室を視察されました。



教室では、出席した受講生7人が名前、出身国、仕事、など自己紹介し、日本語講師を交えて質疑応答など意見交換。先生からは、外国人に対する日本語指導で難しい点などについて質問があり、日本語講師からは、先生らが日本語学習を始めたきっかけや日本語学習の難しさなどに対する質問をしました。その後、3グループに分かれて日本語学習を行っている部屋を視察され受講生らと交流。視察終了後、鴨島のレストランにて、日本語講師やYIA理事らと昼食をしながら歓談しました。



Katya先生は日本文化にも興味をおもちで日本の茶道に関する研究も始められたそうです。